

※ 問1～問20の解答は、全て□の①～⑤から一つ選び、その番号を「OCR解答用紙」にマークしなさい。

問1 次の文は、中学校学習指導要領解説美術編（平成29年文部科学省）「第2章 美術科の目標及び内容」「第1節 美術科の目標」「1 教科の目標」の一部を抜粋したものである。文中の（ A ）～（ E ）に当てはまる語句の正しい組合せを選びなさい。

○「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え」について

この部分は、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力を示している。**造形的なよさや美しさ**とは、（ A ）などから感じるよさや美しさとともに外形には見えない（ B ）よさや美しさなどのことである。**表現の意図と工夫**とは、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫などのことである。また、**美術の働き**などは、身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、（ C ）などの生活や社会を（ D ）する造形や美術の働きなどについて示している。これらは、発想や構想をする際にも、鑑賞をする際にも働く中心となる考えを示している。

（略）

発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどの学習の中心になる考えを明確にすることにより、鑑賞したことが発想し構想を練るときに生かされ、また発想や構想をしたことが鑑賞において（ E ）学習に生かされるようになることが大切である。

	A	B	C	D	E
①	作品全体	内面的な	質感	心豊かに	見方や考え方に関する
②	形や色彩	内面的な	材料	便利に	見方や感じ方に関する
③	作品全体	本質的な	質感	便利に	見方や考え方に関する
④	形や色彩	内面的な	質感	心豊かに	見方や感じ方に関する
⑤	形や色彩	本質的な	材料	心豊かに	見方や感じ方に関する

問2 次の文は、中学校学習指導要領解説美術編（平成29年文部科学省）「第2章 美術科の目標及び内容」「第1節 美術科の目標」「1 教科の目標」の一部を抜粋したものである。文中の（ア）～（エ）に当てはまる語句の正しい組合せを選びなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

○「豊かな情操を培う」について

情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、（ア）をいい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。

特に美術科では、美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求め続けようとする豊かな心の働きに重点を置いている。それは、知性、感性、徳性などの調和の上に成り立ち、豊かな精神や人間としての在り方・生き方に強く影響していくものである。美術の活動は、創造的な体験の中で感性を豊かにし、表現及び鑑賞に関する資質・能力を伸ばし、（イ）を高め、自己の世界として意味付けをし、多様性を理解し自らの（ウ）や可能性の世界を広げていくことから、豊かな情操を培う上で極めて重要な役割をもつものである。

情操を培うためには、（エ）を豊かにもち、表現の活動においては、対象や事象を深く観察し、感じ取ったよさや美しさなどや、自らの心の中を見つめそこから湧出した感情や（ウ）などを、自分の表したい感じや気持ちを大切に描いたり、他者の立場に立って使いやすく美しいものをつくり、生活や社会の中の美術の働きを考えたりするなど、思いを巡らせながら創造的に学習を進めることが重要である。

	ア	イ	ウ	エ
①	芸術を尊重する心	美的感覚	夢	感性や想像力
②	情感豊かな心	美的感覚	イメージ	造形的な視点
③	情感豊かな心	美意識	夢	造形的な視点
④	芸術を尊重する心	美的感覚	イメージ	感性や想像力
⑤	情感豊かな心	美意識	夢	感性や想像力

example

※ 以下の問題は記述問題とする。

※ 問21～問23の解答は、全て「解答用紙（記述用）」に記入しなさい。

問21 次の説明文は、色の三原色について説明したものである。（ア）～（カ）に当てはまる語句を答えなさい。ただし、（ア）と（イ）及び（エ）と（オ）の解答の順序は問わない。

説明文

色の三原色について

色料の三原色は、イエロー、（ア）、（イ）の三色のことである。混ぜると明度が低くなり、黒に近づく。このような混色を（ウ）という。

色光の三原色は、グリーン、（エ）、（オ）の三色のかけ合わせでつくられる。重ねるごとに色の明度が高くなり、白色に近づく。このような混色を（カ）という。

問22 次の説明文は、遠近法について説明したものである。（ア）～（ウ）に当てはまる語句を答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

説明文

まっすぐな道の中央に立ってみると、草木や道の線が一点に集まるように見える。この点を（ア）という。「線遠近法」は、この（ア）と水平線とを決めて描く遠近法で西洋において、図学として発達した遠近法である。遠近法には、近くのものは濃くはっきりと、遠くのものは淡く弱く表す「（イ）遠近法」や、暖色や明るい色は進出し、寒色や暗い色は後退して見えるという色の性質を使った「（ウ）遠近法」などがある。